

東奥日報

2017年(平成29年)8月26日 土曜日 第4社会 (24)

八学大と青い森信金 地域産業振興で連携

八戸学院大学(大谷真樹学長)と青い森信用金庫(益子政士理事長)は25日、地域社会の発展と産業振興への貢献を目的とした連携協力協定を締結した。同大と金融機関の連携、同信金と大学との連携はいずれも2例目となる。

両者がそれぞれ保有する人的ネットワークと地域の経済情報を有機的に結びつ



協定締結後、が
っちりと握手を
交わす大谷学長
(左)と益子理事長
(右)

け、新たなビジネスチャンスを創生するなどして地域

等に関する情報交換と相互支援、研究開発ニーズの把握、健康・福祉・スポーツ振興へ向けた協力などを軸に連携を深める。

具体的な事業の立案、実施は今後進める。同大が取り組む起業家養成講座への同信金の協力、同大卒業生の地元就職への同信金の支

援、地元企業の販路開拓へ向けた同大と同信金の協力などが考えられるという。

同大で同日行われた締結式では、大谷学長と益子理事長がそれぞれ協定書に署名した。大谷学長は「大学のネットワークと金融機関の情報をマッチングさせることで地域経済のイノベーション(改革)が生まれ、新たな活路が開かれる」、益子理事長は「商品を開発しても販路や売り方に悩む経営者は多い。大学の研究と企業をコーディネートする有意義な協定」と語った。

(若松清巳)

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」